

図4 学区別報告件数

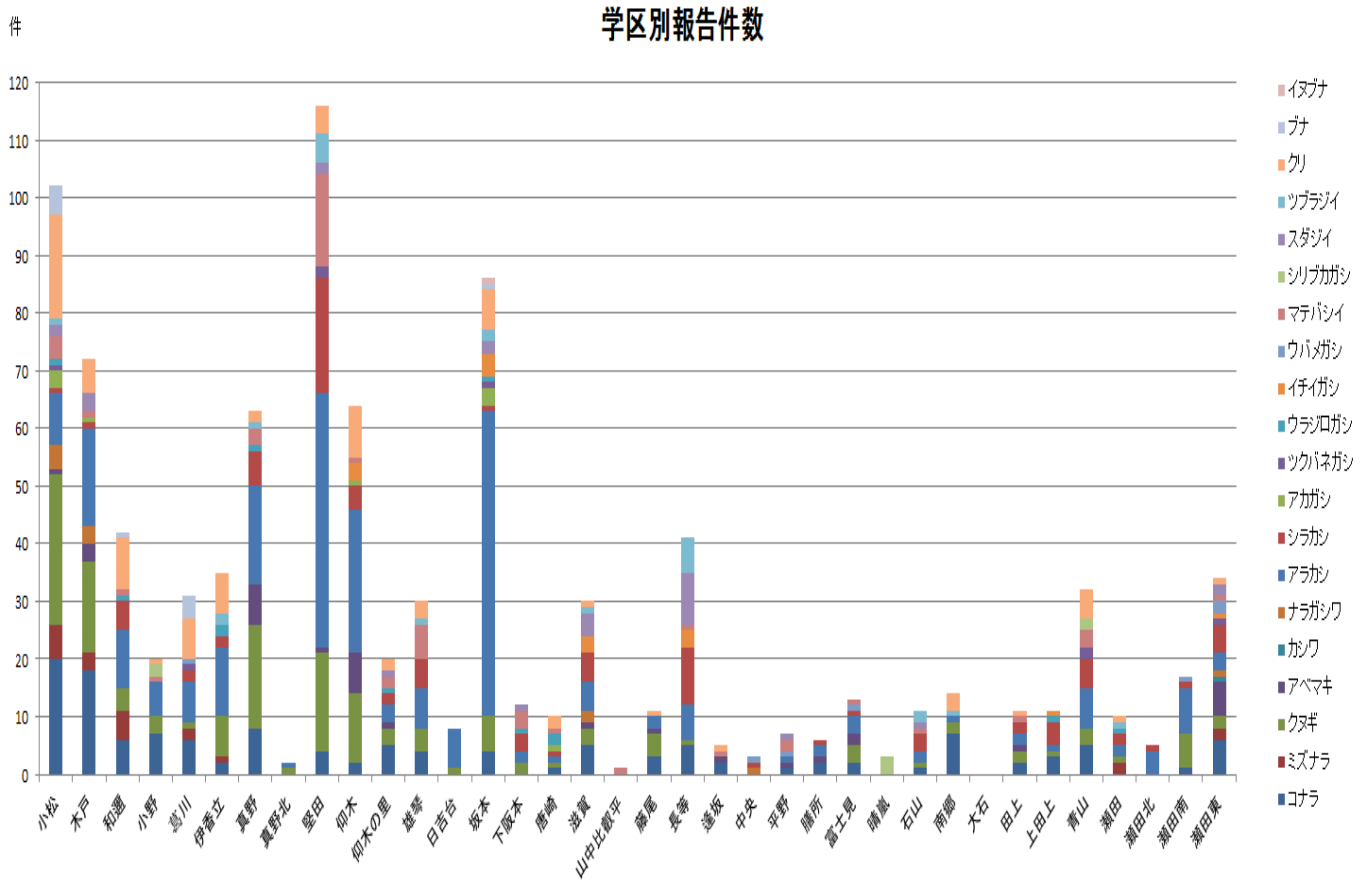
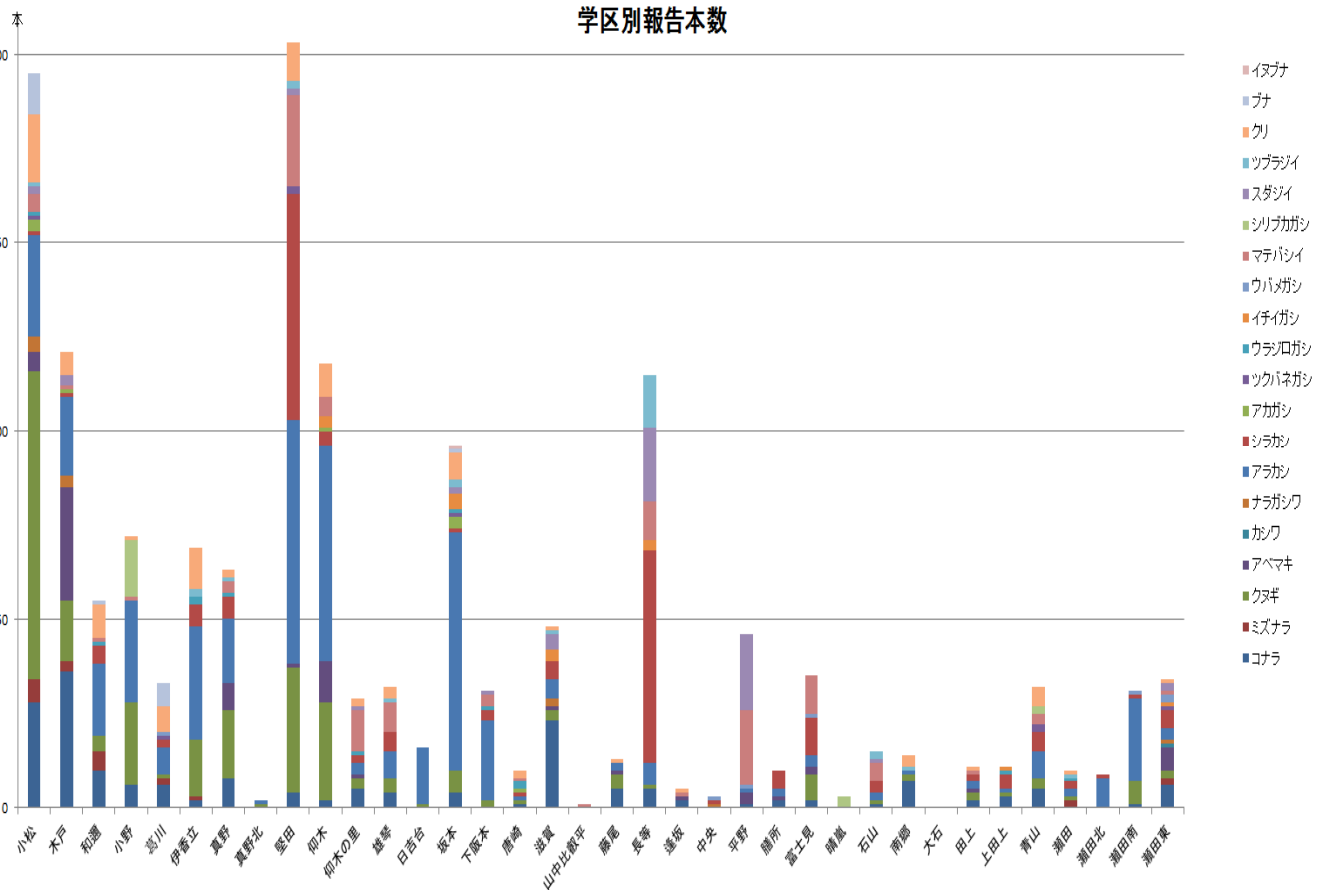


図5 学区別報告本数



④環境別報告結果

表4及び図6・7から、以下のとおり考察をしました。

全体としては、山・道沿い・公園・社寺を主な成育場所としていることがわかります。

山→アラカシ・コナラ・クヌギ・クリの報告が多くなっています。比率では、ブナ・イヌブナ・ミズナラ・アカガシが高くなっています。なお、ブナ・イヌブナについては、ともに山のみの報告となっていたため、100%となっています。

道沿い→アラカシ・クヌギ・マテバシイ・シラカシの報告が多くなっています。クヌギは山道に近い道路で観察されており、その他の3種は街路樹・生垣として市街地に植えられていることが要因と考えられます。

公園→アラカシ・クヌギ・シラカシの報告が多くなっています。アラカシ・シラカシについては公園樹として植樹され、クヌギについては、山裾等にある公園において自生していることによるものと考えられます。

社寺→アラカシが群を抜いて特に多く見つけられました。比率ではスタジイやツブラジイも高くなっています。カシやシイは極相林を形成する樹木であるため、社寺にあるような古い森林では最も一般的であると考えられます。

田畑・川沿い・学校→報告数は非常に少なくなっています。

また、「その他」の報告では、会社や民家、古墳や墓地、図書館や病院等が挙げられました。

表4 環境別報告本数

環境の種類	コナラ	ミズナラ	クヌギ	アベマキ	カンナ	ナラガシワ	アラカシ	シラカシ	アカガシ	ツクバネガシ	ウラジロガシ	イチイガシ	ウバメガシ	マテバシイ	シリブカガシ	スタジイ	ツブラジイ	クリ	ブナ	イヌブナ	不明	合計
①山	62	14	41	11	0	2	78	10	5	1	3	5	0	12	0	1	5	41	19	1	6	317
②田畑	1	0	15	1	0	0	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	30
③川沿い	13	1	33	5	0	0	20	0	1	0	0	1	0	11	3	0	0	0	0	0	2	90
④道沿い	35	1	69	29	0	7	93	41	1	3	3	3	2	42	17	4	5	30	0	0	15	383
⑤公園	36	5	72	17	1	2	96	63	1	3	4	3	4	37	17	29	0	10	0	0	1	401
⑥学校	5	0	2	1	0	0	7	4	0	0	0	0	0	8	0	1	2	1	0	0	0	31
⑦社寺	4	0	22	1	0	0	92	26	1	1	0	3	1	1	0	23	15	3	0	0	2	195
⑧他	25	0	10	0	0	0	53	51	0	0	2	0	0	4	0	0	1	12	0	0	3	161
総計	181	21	264	65	1	11	447	196	9	8	12	15	7	115	20	58	28	101	19	1	29	1608

図6 環境別割合（合計）

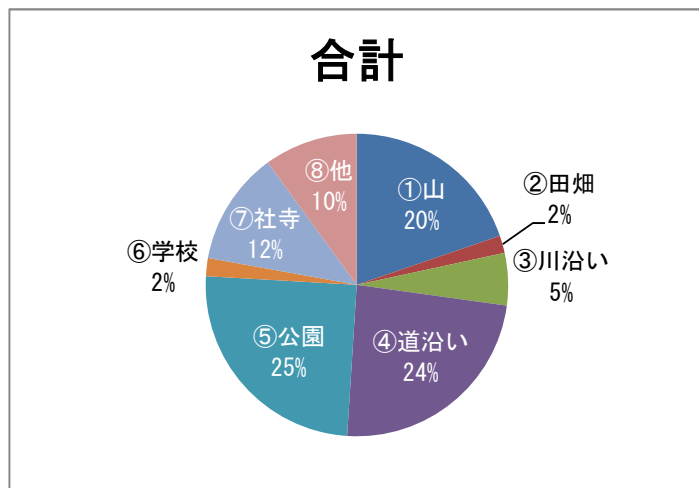


図7 環境別割合（種別）



⑤地域ごとのグループ分けによる結果

④の結果から、似通った種類同士を下記のとおり9つのグループに分けて地域別に比較しました。これは、平成14年度、25年度に行った調査で使用した手法と同様のもので、H・Iのみ追加しています。

- A コナラ・ミズナラ
- B クヌギ・アベマキ
- C カシワ・ナラガシワ
- D アラカシ・シラカシ
- E アカガシ・ツクバネガシ・ウラジロガシ・イチイガシ・ウバメガシ
- F マテバシイ・シリブカガシ
- G スダジイ・ツブラジイ
- H クリ
- I ブナ、イヌブナ

表5及び図8・9から、以下のとおり考察をしました。

まず、ABCグループについては、北部で多く見られます。これらは落葉樹であり、里山に多い種類であるため、山裾や森、公園がある地域に集中しているようです。

つぎに、DEFグループについては、中部地域を中心に多く見られ、加えて北部地域や瀬田東の森でも見られました。これらは常緑樹であり、街路樹や生垣、社寺や公園の植栽に使われている関係で中部に多いと考えられます。一方で、山に自生するものも多いようです。

Gグループについては、これも常緑樹ではありますが、長等などの社寺が多くある地域で見られました。社寺では樹木が保護されるとともに、古来の森の一部がそのまま残されている場合もあり、極相林を形成するシイ類が多いという理由が考えられます。

Hについては北部や青山等の山で自生しているのを見つけられました。

最後にIグループについても、北部や中部の山にて自生しているのを見つけられました。

表5 学区別報告本数（グループ）

	A コナ ラ・ミ ズナ ラ	B クヌ ギ・ア ベマ キ	C カシ ワ・ナ ラガ シワ	D アラ カシ・シ ラカ シ	E イガ シ・ウ ラジ ロガ シ・イ バメ ガシ	F シマ テバ シイ・シ リブ カガ	G スタ ジイ・ブ ラジ イ	H クリ	I ブナ ・イヌ ブナ	不明	合計
小松	34	87	4	28	5	5	3	18	11	8	203
木戸	39	46	3	22	1	1	3	6	0	0	121
和邇	15	4	0	24	1	1	0	9	1	1	56
小野	6	22	0	27	0	16	0	1	0	1	73
葛川	8	1	0	9	2	0	0	7	6	2	35
伊香立	3	15	0	36	2	0	2	11	0	0	69
真野	8	25	0	23	1	3	1	2	0	0	63
真野北	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
堅田	4	34	0	125	2	24	4	10	0	4	207
仰木	2	37	0	61	4	5	0	9	0	0	118
仰木の里	5	4	0	5	1	11	1	2	0	2	31
雄琴	4	4	0	12	0	8	1	3	0	0	32
日吉台	0	1	0	15	0	0	0	0	0	0	16
坂本	4	6	0	64	9	0	4	7	2	0	96
下阪本	0	2	0	24	1	3	1	0	0	0	31
唐崎	1	1	0	2	3	1	0	2	0	1	11
滋賀	23	4	2	10	3	0	5	1	0	2	50
山中比叡平	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
藤尾	5	5	0	2	0	0	0	1	0	0	13
長等	5	1	0	62	3	10	34	0	0	1	116
逢坂	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0	5
中央	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3
平野	1	3	0	1	1	20	20	0	0	2	48
膳所	2	1	0	7	0	0	0	0	0	1	11
富士見	2	9	0	13	1	10	0	0	0	0	35
晴嵐	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	4
石山	1	1	0	5	0	5	3	0	0	0	15
南郷	7	2	0	1	0	0	1	3	0	0	14
大石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田上	2	3	0	4	0	1	0	1	0	0	11
上田上	3	1	0	5	2	0	0	0	0	2	13
青山	5	3	0	12	2	5	0	5	0	0	32
瀬田	2	1	0	4	1	0	1	1	0	1	11
瀬田北	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	9
瀬田南	1	6	0	23	1	0	0	0	0	0	31
瀬田東	8	8	2	8	4	1	2	1	0	0	34
合計	202	339	12	645	51	135	86	101	20	29	1620

図8 学区別報告件数（グループ）

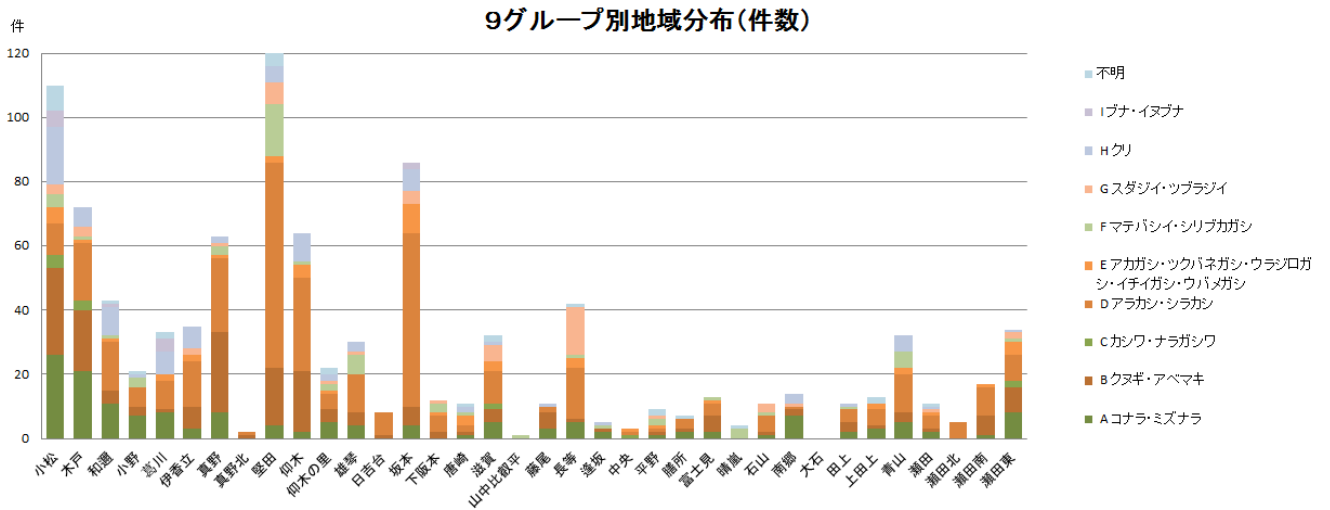
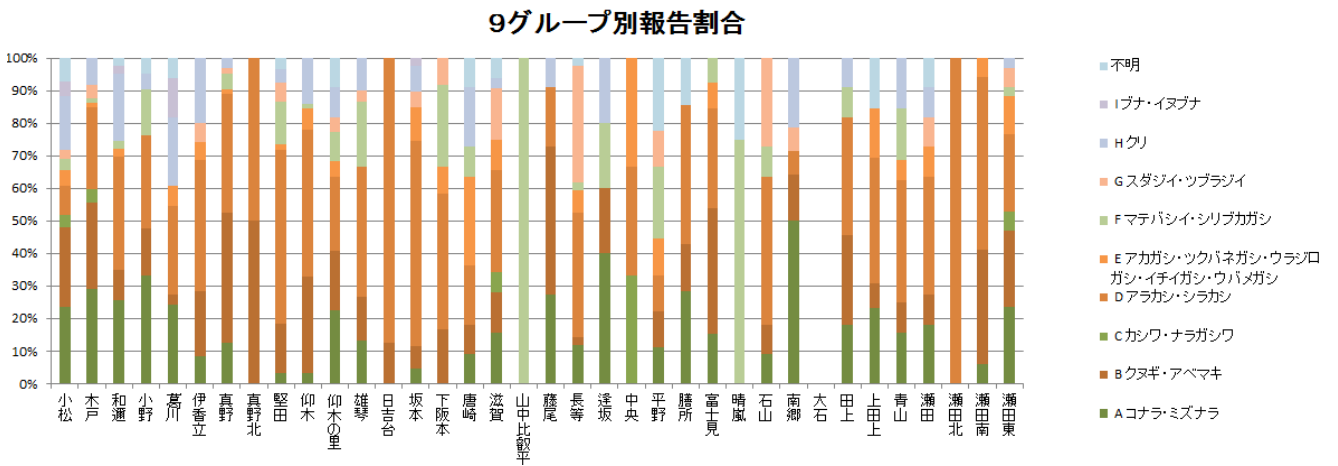


図9 学区別報告割合（グループ）



◎その他

1 ドングリの形

表6より、以下のとおり考察をしました。

今回は、ツブラジイを「丸い」、スダジイを「細長い」、ブナ・イヌブナを「三角錐」として基準を設けました。ドングリだけで種類を判断することは非常に難しいことや、成長段階のものは形が一定ではないことから、形に関しては様々な報告をいただきました。特にアラカシやシラカシにおいては、形態のバリエーションが豊富なため、1本の木で多様なドングリを楽しめるとも言えます。

表6 ドングリの形と種類（本）

ドングリの形	コナラ	ミズナラ	クヌギ	アヘマキ	カシワ	ナラガシワ	アラカシ	シラカシ	アカガシ	ツクバネガシ	ウラジロガシ	イチイガシ	ウバメガシ	マテバシイ	シリブカガシ	スダジイ	ツブラジイ	クリ	ブナ	イヌブナ	不明	合計
①丸い	11	1	249	66	0	8	204	58	3	4	2	12	3	1	15	1	25	14	0	0	9	686
②細長い	165	15	0	2	0	2	198	133	4	3	7	0	3	88	5	44	2	0	0	0	12	683
③三角錐	2	3	1	0	0	0	8	0	0	0	2	0	0	1	0	10	0	35	9	0	3	74
④他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	2	25
合計	178	19	250	68	0	10	410	191	7	7	11	12	6	90	20	55	27	72	9	0	26	1468

2 殻斗の形

表7から、以下のとおり考察をしました。

殻斗の形は非常に見分けやすく、ドングリを同定する上では最初のステップであることがわかります。

表7 殻斗の形と種類（本）

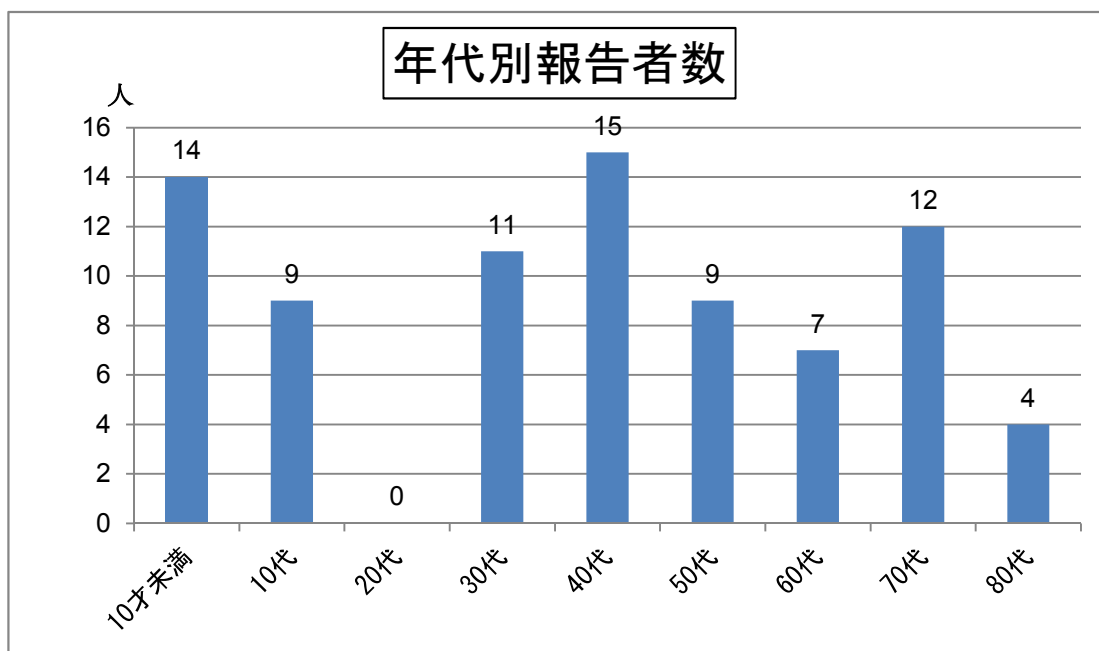
殻斗の種類	コナラ	ミズナラ	クヌギ	アヘマキ	カシワ	ナラガシワ	アラカシ	シラカシ	アカガシ	ツクバネガシ	ウラジロガシ	イチイガシ	ウバメガシ	マテバシイ	シリブカガシ	スダジイ	ツブラジイ	クリ	ブナ	イヌブナ	不明	合計
①もじゅもじゅ	0	0	254	57	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4	319
②うろこ模様	167	17	0	5	0	8	1	2	0	0	1	0	6	95	20	0	1	0	1	0	3	327
③横しま模様	2	1	0	0	0	0	396	149	7	8	10	10	0	0	1	0	0	0	0	0	9	593
④裂ける	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	51	24	30	1	0	0	107
⑤不明	7	2	0	0	1	2	16	0	0	0	1	2	1	4	0	3	1	2	4	0	9	55
合計	176	20	254	62	1	10	414	151	7	8	12	12	7	100	20	55	26	33	8	0	25	1401

3 報告者の年齢分布

図10から、以下のとおり考察をしました。

今回の調査では、10歳未満及び30代、40代の方に多く比較的多くご協力いただきました。ご家族で参加される方が多いため、このような分布になったと考えられます。また、セカンドライフを送っておられる方の多い70代の方にも多く参加いただきました。幅広い年代の方にご協力いただけた結果となりましたが、20代については参加が無かったという点について、今後、積極的に協力をあおいでいきたい対象となります。

図10 報告者年齢分布（人）



平成14年度ドングリの調査について（一部改定版）

（1）調査期間

平成14年10月1日～平成14年11月30日

（2）調査対象地域

大津市内全域

（3）調査するドングリの種類

- シイ属 …スタジイ、コジイ（ツブラジイ）
 - コナラ属 …クヌギ、カシワ、アベマキ、ナラガシワ、コナラ、ウバメガシ、ミズナラ、アカガシ、ツクバネガシ、ウラジログシ、シラカシ、アラカシ、イチイガシ
 - マテバシイ属 …マテバシイ、シリブカガシ
- 以上、計17種。

（4）調査方法

本年度と同一

（5）調査結果

全体の概要

調査件数は延べ1,342件（うち市外5件）で、地域別に見ると大津市内の全ての地域で見つかり、種類別に見ると対象となったドングリ17種類全てが見つかりました。

① 種類別報告結果

調査対象となっていた17種類のドングリ全てが大津市内にあることが確認されています。特に報告件数が多かったのはアラカシ381件（28%）で、続いてコナラ254件（19%）が多くなっています。アラカシは自生も植栽もあり、様々なところで見かけられ、関西で最もありふれたドングリだといわれるのも納得できます。

② 地域別報告結果

特に報告件数が多かったのは、順に瀬田東109件、長等106件、坂本100件で、これらの地域にはドングリがあると思われる特定の場所が存在することが原因していると考えられます。例えば、瀬田東には文化ゾーンや龍谷大学、長等には皇子が丘公園や皇子山総合運動公園、坂本には日吉大社や西教寺というようにこれらの地域にはドングリをよく見かける場所があります。

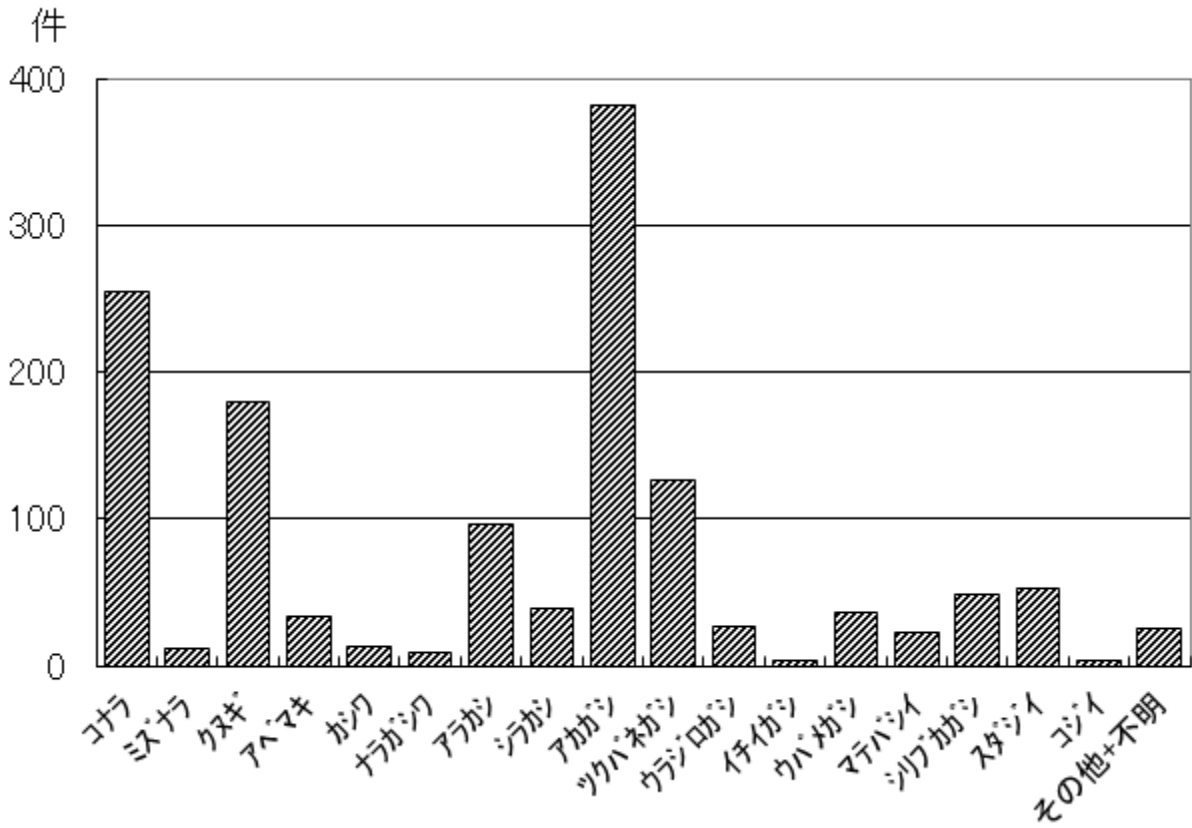


図1 種類別報告件数

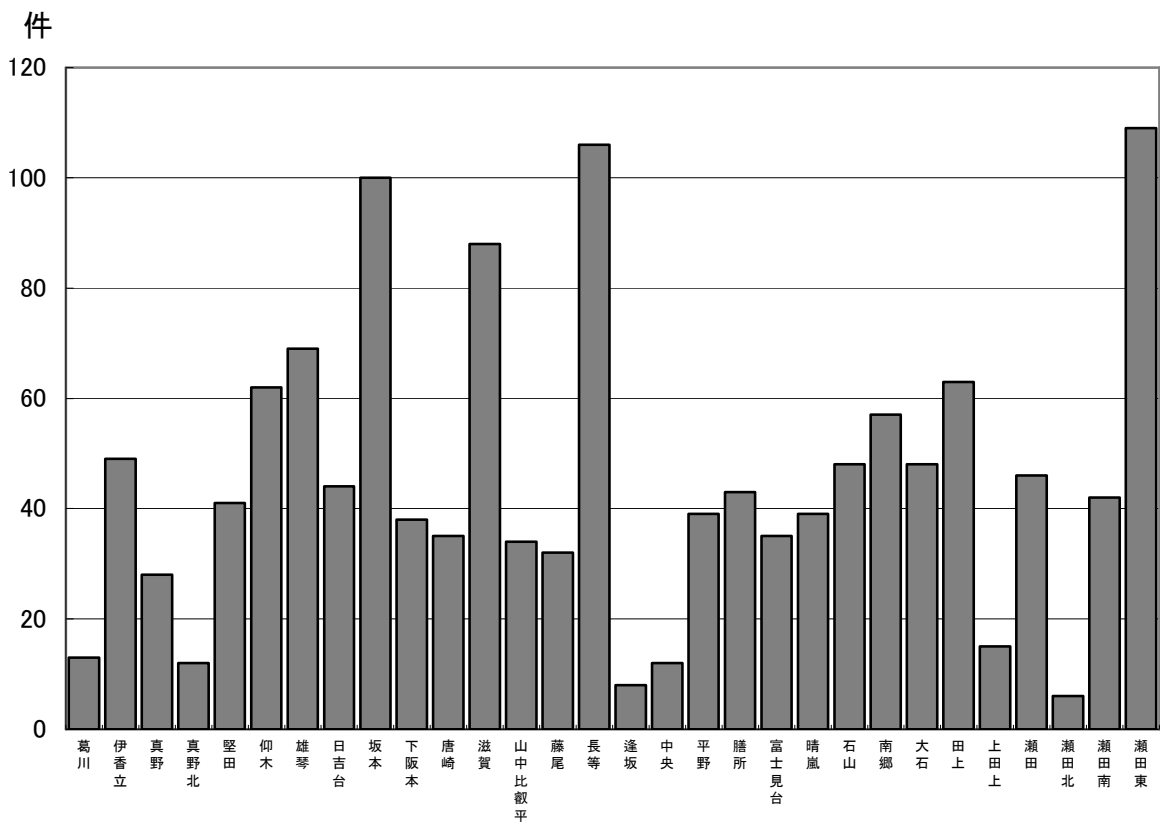


図2 地域別報告件数

③ 環境別報告結果

ドングリは全体的に見て山、林、寺社、公園、道沿いなどを代表としていろいろな環境に育っていることがわかります。

次に、種類別にドングリの木のある環境の種類を比較します。

コナラ、ミズナラ、クヌギ、アベマキ、カシワ、ナラガシワのような落葉樹は、山や林などに自生している場合が多く昔からある里山の風景になじむものと考えられます。

常緑のシイ類であるコジイ、スタジイは寺社に多く植えられています。

同じく常緑でカシ類のアラカシ、シラカシはいろいろな環境で自生しており、アカガシは山の方にあり、ウラジロガシは山に自生していたり寺社に植えられていたりします。また、イチイガシは寺社に多く大津市で自生しているものはないと言われています。大津市の近江神宮にはイチイガシが約80本もあることが滋賀植物同好会 近江神宮の森自然調査グループの調査により報告されていますが、こんなにたくさんのイチイガシが見られるのは県内では他に例をみないということです。そして暖かい地方の海岸で自生するウバメガシは、家の垣根として見かけたり公園などで身近に見られます。

マテバシイは公園などに多いようです。

ツクバネガシやシリブカガシなどは報告が数件しかなく、この結果からは傾向は捉えにくいと考えられます。

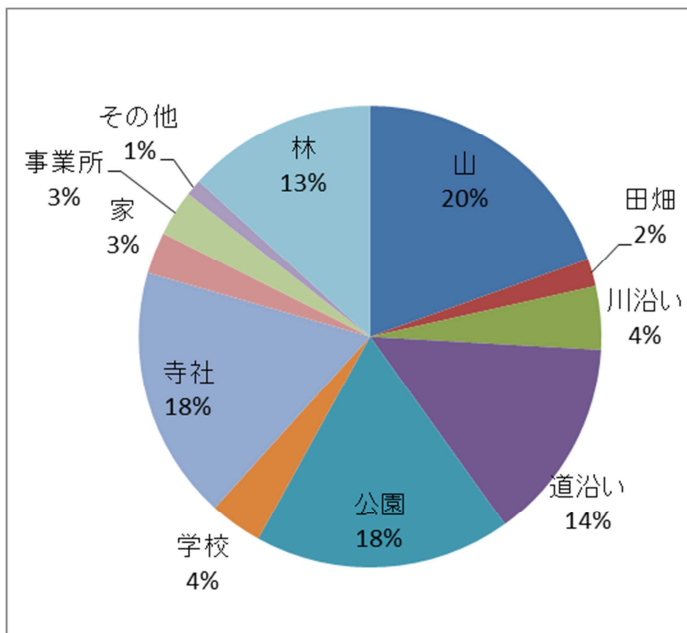


図3 環境別報告結果(全体)